



# 分子神経科学セミナー

## リーリンアダプタータンパク質 Dab1は不安情動に関連する

*Dab1, a reelin adaptor protein, is related to anxiety emotion.*

寺島 俊雄 Toshio Terashima

神戸大学 名誉教授 Emeritus Professor of Kobe University

リーラーマウスの原因遺伝子リーリンが脳皮質のカハール・レチウスの水平細胞に発現することが証明された1995年以後、脳皮質の発生のメカニズムはかなり解明された。近年、(1)リーリンは、生後になるとGABA作動性の抑制性皮質ニューロンに持続的に発現することより発生過程の組織形成以外の機能をもつ可能性があること、また(2)統合失調症でリーリンの発現が低下するという臨床的な研究もあり、リーリンと精神疾患との関連性が注目されている。しかしリーリンと精神疾患との関連性を疑う研究や、リーリンを欠損するヒト家系には精神疾患の病歴が確認できないことより、リーリンと精神疾患との関連性は依然として不明である。今回 私たちはリーリンではなくその下流で機能する Disabled 1 (Dab1) を背側終脳特異的に欠損させたcKOマウスを作製し、形態学、行動心理学的な研究をした。欠失させる遺伝子をリーリンからDab1に変えた理由は、リーリンが分泌性タンパク質であるため背側終脳外で発現が残るリーリンの影響を除外できないからである。作成したDab1cKOマウスは不安情動が軽減することより、リーリン/Dab1シグナル伝達系は、不安情動に関連する可能性が示唆された。なお本研究は共同研究者の勝山裕博士(現滋賀医大教授)が中心となって行った研究である。

【参考文献】 Imai et al., Cerebral Cortex, first published online January 12, 2016

日時 平成28年 12月1日(木)

16:00~18:00

場所 医学系研究科 講義棟1階 A 講堂

### お問い合わせ

大阪大学大学院 医学系研究科 分子神経科学

山下 俊英 (代) 岡村

okamura@molneu.med.osaka-u.ac.jp